

こころを育む総合フォーラム・シンポジウム

子どもの心の言葉に耳を

私たち日本人は繁栄の中で「心」を失いつつあるのではないかと、いじめや虐待の問題はその表れではないのか―各界の有識者が集う「こころを育む総合フォーラム・シンポジウム」が21日、東京・千代田区の一橋記念講堂で開かれた。山折哲雄・国際日本文化研究センター名誉教授が「こころを育むとは」と題して基調講演を行い、心の奥底からの言葉じつと聞き入ろうと呼びかけた。パネリストは金澤一郎・国立精神・神経センター総長をコーディネーターに、4人のパネリストが心をとり戻すために何が出来るかを語り合った。



鷺田清一氏

大阪大学副学長。関西大学教授、大阪大学文学部長などを歴任。専門は哲学、倫理学。「モードの迷宮」など著書多数。



永井多恵子氏

NHK副会長。解説主幹として女性問題、文化・教育問題の番組製作などに従事。定年退職したが、昨年の人事改革で復帰。



滝鼻卓雄氏

読売新聞東京本社社長・編集主幹。論説委員、社会部長などを歴任。2004年8月から読売巨人軍取締役オーナーに就任。



葛西敬之氏

JR東海会長。同社取締役、社長を歴任。政治、外交、経済と幅広い分野の見識を持つ論者。教育再生会議の委員に起用された。



金澤一郎氏

国立精神・神経センター総長。専門は神経変性疾患の研究など臨床医学。皇室医務主筆も務め、今月から日本学術会議の会長に。

金澤 戦後60年を経て、日本は繁栄の中で得たものがあれば、失ったものもある。「こころを育む」とは、重いテーマだが、私たちが月一回のフォーラムを通じて、次の世代に何かいいものを残さないかと考えざるを得ない。こころを育むには、経験的に身につけていく必要がある。こころを育むには、経験的に身につけていく必要がある。こころを育むには、経験的に身につけていく必要がある。

自然に育つ地域社会に

自分のことと取めないで

家庭での体験こそ大切

永井 五輪の水泳でメダルをとった女性に気持ちよくおめでとうと声をかけた。30過ぎの彼女は、20代初めで、彼女が言った「神様」という言葉は、神様が最後にほほえんでくれるかどうか、自分の日常の行為にかかっていると話してくれた。鷺田 子育ては、「育てる」という他動詞で語られる。むしろ「育つ」という自動詞を大切にしたい。気が付くと自然に育つていく教育が、一番いい教育ではないか。以前なら、子どもが自然に育つ場が社会で成り立っていた。一人の人間が別の人間の面倒をそっくり見るといつか自己が自然に育つというところから始まる。金澤 日本学術会議で興味深い意見が交わされた。最近の住宅は、隣家との距離が遠くなった。家の中で

人間学的なものに関心

子どもは大人見ている

滝鼻 国語教育、活字文化のことを話した。私ども社では、国語中心の入社試験をしている。国語の問題には、社会的常識が求められる。心の中の問題もあろうかと思う。新聞だけでなく本を読むことによって、主人公の痛みや怒りを体験できる。今の社会はそれを忘れてしまっているのではないか。葛西 同感だ。企業でも取り入れて補わなければならない。子どものころに、文学的なもの、人間学的なものに興味を持つ習慣を身につけさせたい。鷺田 家庭と学校と社会の関係が象徴的に表れているのが、いじめの問題だ。先生や親が集中して責任を問われるが、完全な先生はいないという前提で考えたほうがいい。昔は、しつけや社会的ルールの問題は、親や地域がすべきことだった。今では学校で教えるという。大人の側が、一番大切なものは何かを伝える。金澤 虐待を受けた子どもの約3分の1は大人になってからわが子を虐待してしまう。虐待の連鎖だ。子どもたちは大人たちを見て、それを常に意識しながら子どもと接しなければならぬ。良い方向での連鎖を生み出した。

基調講演

山折哲雄氏

今年4月のトリノ五輪で、日本勢は荒川静香さんが金メダルをとるまで連続連敗だった。そんな時、NHKの前畑秀司さんの回想番組を見た。1993年のロサンゼルス五輪の女子0.0点平泳ぎで銀メダルをとった当時を話されていた。彼女は、母の「もう一度、頑張りなさい」との言葉を支えに、4年間練習を重ねた。ベルリン五輪で決勝に臨み、「死ぬ覚悟で泳ぐ」と誓って、号砲の直前、教壇に立つ。私は間違っていない



国際日本文化研究センター名誉教授。国立歴史民俗博物館教授、同センター所長などを歴任。専門の精神学から日本人の精神構造や文化風土へのアプローチを行っている。

「お母さん」と叫ぶ瞬間 今の世代も

第一巻で、海運業者である主人の故郷の淡路島で、いかじいといじめに遭ったかきを記した。この本が出た当時は校内暴力がブレイクしていた。校内暴力に力をつけて浮上してきたのがいじめ問題であった。司馬さんは、「いじめ」に相対する言葉は中国語にも英語にも日本語にもない。いじめは子どもたちの問題である。同時に、大人たちの問題でもある。では、私はどうしたらいいのかわからない。松風「井筒」は、かきもいじめを必要なのかもしれない。